

柏崎市介護人材確保と職場定着を考える介護・福祉職員
ワークショップ報告書

目次

ワークショップ実施概要	1
ワークショップテーマ	3
ワークショップ実施内容	4
ワークショップ発表内容	5
ワークショップ後の振り返り	12

ワークショップ実施概要

日時：令和5年6月22日（木） 14：00～16：15

場所：柏崎市役所1階多目的室

対象：市内介護・障害福祉事業所に勤務する若手職員（勤続年数3年未満・39歳以下）21名

主催：柏崎市

次第：1.開会・あいさつ 村田福祉課長
2.目的・概要説明 事務局
3.プログラム・ルール説明
4.グループ内自己紹介
5.デモンストレーション
6.ブレスト1
7.ブレスト2
8.発表
9.総括・閉会 尾崎介護高齢課長

ワークショップ実施概要

■目的

市内介護・障害福祉事業所に勤務する若手職員が自信と誇りを実感し、新たな取組への挑戦につなげる。

- 1 仲間づくり
事業所の垣根を超えた交流により孤立を防ぎ、モチベーションを高める。
- 2 共感
悩みを共有し、仲間同士で解決策を考え、互いを尊重して支え合う。
- 3 介護業界の変革
将来の若手人材を育てる環境づくりを地域とともに考える。

■実施内容

ワークショップを実施し、具体的には以下のテーマについて話し合う。

なお、正解不正解のない意見交換の場を通じて、参加者の心理的安全性を確保しつつ、日頃と異なる思考訓練により、発想の幅を広げるよう配慮して運営する。

①未来の介護・福祉の世界について

→現状から離れ、未来の変革について自由に考えます。

②介護福祉職の魅力について

→仲間とのマインドの共感を通じて、介護福祉職の魅力について考えます。

ワークショップテーマ

テーマ1

『介護福祉職の魅力』とは？



テーマ2

『未来の介護・福祉の世界』とは？

カードを使用し自由な発想で、質よりも量を生み出す
ブレインストーミングの方法により実施。

ワークショップ 実施内容

日 時： 令和5年6月22日（木） 14：00～16：15

グループ： Aグループ5名、Bグループ4名、Cグループ4名
Dグループ4名、Eグループ4名

テーマ：① 『介護福祉職の魅力』とは？

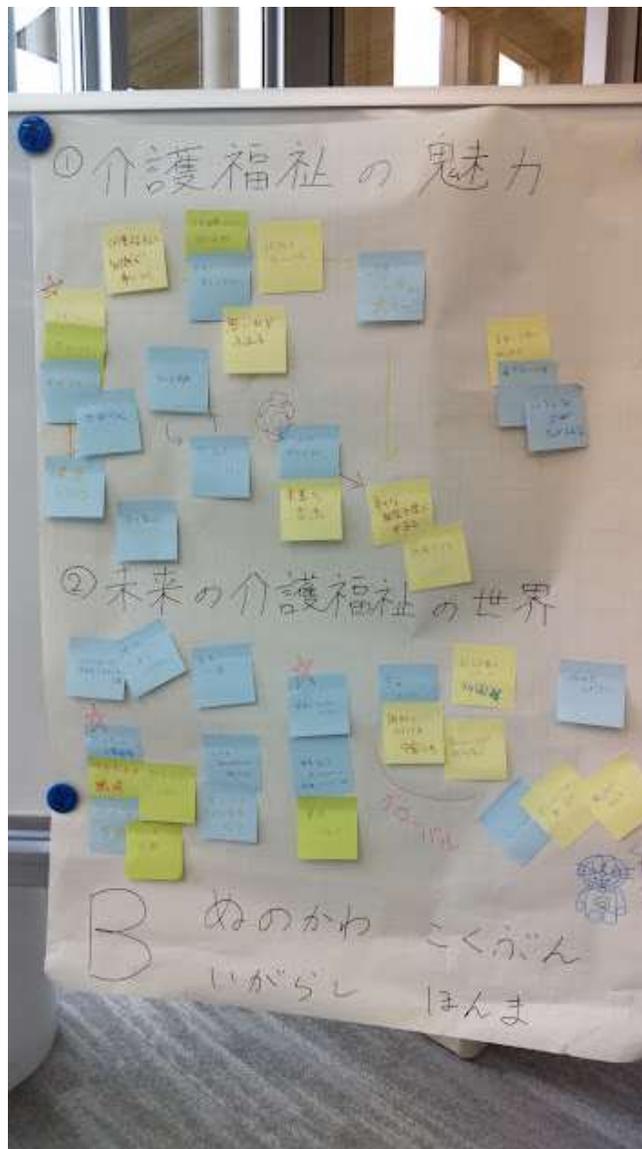
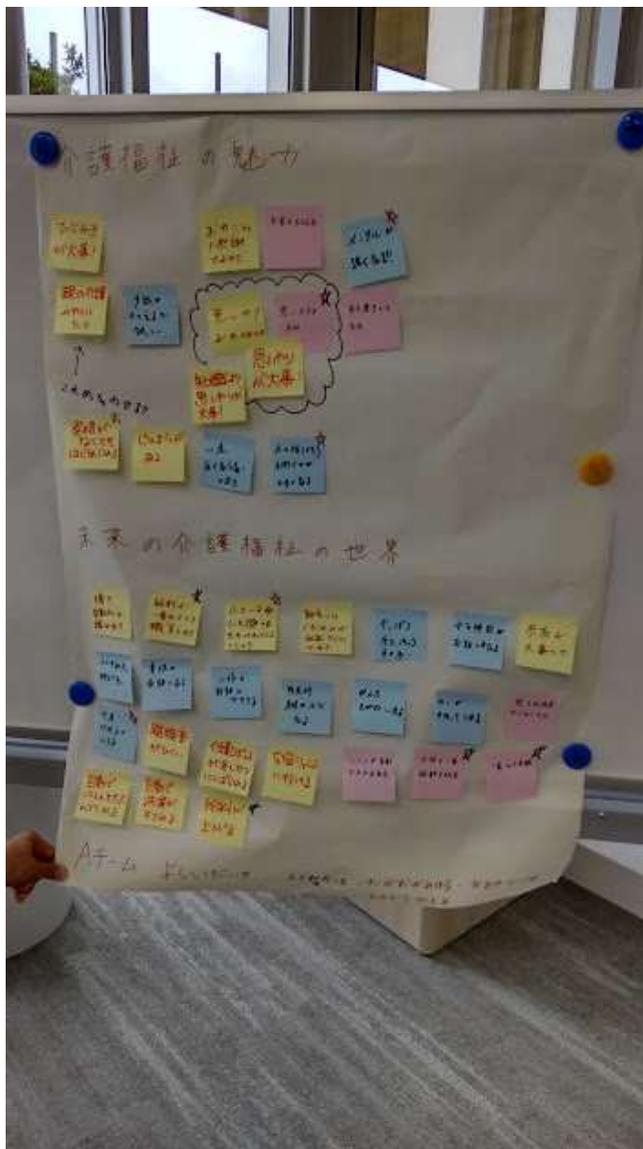
14:40～15:00

② 『未来の介護・福祉の世界』とは？

15:05～15:25

ワークショップ 発表内容

各グループのテーマ整理



主な意見

○テーマ1 『介護福祉職の魅力』とは？

- 力がつく、運動になる、マッコになる
- メンタルが強くなる
- 日々発見や学びがあり自己成長につながる
- コミュニケーションスキルの向上を図ることができる
- 様々な資格を取得できる
- 親を含め身近な人の介護を行うことができるようになる
- 知識より思いやりや優しさが大切であり、人から求められる仕事である
- 需要がありなくなる仕事である
- お金では得られない利用者の笑顔にふれることができる仕事である

ワークショップ 発表内容

主な意見

○テーマ2 『未来の介護・福祉の世界』とは？

- 給料がアップすること
- 休日や休暇等の待遇面が向上し、在宅勤務等の働き方が自由になること
- 介護ロボットの導入により負担が減ること
- 多国籍な現場となる
- 資格取得に関する補助制度
- 遠い場所への送迎も楽になること
- 子どもにも一番人気の仕事である
- 今も未来も思いやりや優しさ、愛情であられる仕事である

ワークショップ 発表内容

Aチームのまとめ

テーマ1について

職員自身にプラスに働く点として、例えば、メンタルが強くなる、親の介護に役立つ、資格がなくても始められる、といった意見が挙げられた。

職業に対する魅力としては、需要がありなくなる仕事である、といった意見の他に、知識よりも思いやりが大事であり、入居者・職員に対する接し方をしっかりと行うことができる人が魅力的である、とか、お金をかければいい部分は真似されてしまうが人への接し方、優しさ等はその人の努力であり簡単に真似ができない。思いやりが大切なことは今も未来も変わらないと思う、といった意見が挙げられた。

テーマ2について

職員が期待することとして、給料が一番もらえる職業になる、という意見が多く挙げられていた。

職業としての未来は、小さい子供にも興味を持ってもらえる、一番人気の職業である、介護ロボットが増える、といった未来が望ましいという意見が挙げられた一方で、人間としてのおもいやりが重要で、全部ロボットになればいい、とは考えていない、という意見も挙げられた。

Bチームのまとめ

テーマ1について

職員自身にプラスに働く点として、自己成長につながる、という観点からの意見が多く挙げられた。具体的には、力がつく、健康になる、色んな方がいるので貴重な交流の機会が得られ、日々発見・学びがあり成長できる、お金じゃない何か、この仕事でなければ得られない何か（思いやり、ふれあいの中での発見等）がある、方言等の言葉を学ぶことができる、といった意見が挙げられた。

テーマ2について

職員が期待することとして、給与のアップ、睡眠がしっかりととれる環境が整い、健康になる仕事である、アットホームな雰囲気であれみんなが笑顔である職場である、自由に旅行や宇宙に行くことができる、といった意見が挙げられた。

職業としての未来は、引く手あまたの業界ナンバーワンの仕事、といった意見が出た一方で、国際化の視点が述べられ、例えば、人の動きが増え職場も多国籍になる、海外と手紙等のやりとりができる、といった意見も挙げられた。

ワークショップ 発表内容

Cチームのまとめ

テーマ1について

介助をする仕事であることから、力がつく、といった意見が多く挙げられた一方、利用者と日々コミュニケーションをとることで、視線を合わせて寄り添いながら話を聞く、というスキルが身につく、といった意見も挙げられた。

テーマ2について

職員が期待することとして、給料アップや待遇の向上を期待する声が多く、職場の方と旅行や飲み会等のための互助会といった仕組みも、今の若者にとってはiTunesやスマートフォンの音楽プレゼント、クオカード等のプレゼントといった方が響く、といった意見も挙げられた。

職業としての未来は、現場職員の方々の想いがこもった意見が多く挙げられた。具体的には、そもそも介護福祉職に就く方は元々心が優しい人が多いと感じていること、今も気持ちを込めて仕事をしているが、未来においてもあたたかい気持ちで仕事をし、利用者も職員も愛情にあふれる仕事であり続けたい、未来も同じように愛情あふれる仕事にしたい、色々な方に勧められる仕事にしたい、といった意見である。

Dチームのまとめ

テーマ1について

職員自身にプラスに働く点としては、心が広くなる、たくさん動くから運動になる、色々な資格が取れる、利用者色々な話をする中で知識・情報が得られる、といった自己成長につながる意見が多く挙げられた。その一方で、利用者の笑顔が見られる、利用者の生活を陰で支える存在になることができる、といった支援者として満足感・充実感に関する意見も挙げられた。

テーマ2について

職員が期待することとして、給料が高くなること、年間休日の増加やリフレッシュ休暇等の取得、在宅勤務等待遇や働き方に関する意見が多く挙げられた。

職業としての未来は、力仕事がなくなりロボット介護が進むこと、コロナ禍となり難しくなった利用者や気軽にかけられる場面が増えてほしい、職員の待遇が充実することで利用者に対するサービス向上につながる、といった意見のほか、資格取得に関する補助金があるといい、といった意見も挙げられた。

ワークショップ 発表内容

Eチームのまとめ

テーマ1について

介護福祉職の魅力として、素敵な出会いがあり、利用者と接する中で様々な宝物を発見し、心が温くなる、という循環が日々あることが魅力である、という意見があった。その他に、内に秘めている力が出てくる、といった意見やマッチョな職員やお金持ちになれる職員、といった方が業界で出てくると魅力的にうつる、といった意見も挙げられた。

テーマ2について

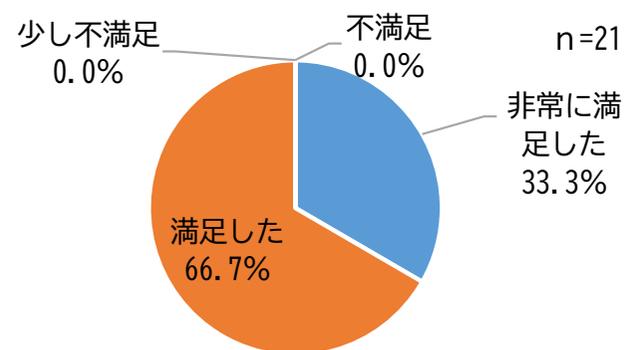
職員が期待することとして、報酬単価が上がり給与が上がることや、介護ロボットの導入等により身体も含め負担が減ることへの期待に関する意見が挙げられた。また、自分の好きな季節がずっと続き、利用者とその季節をずっと一緒に楽しむことができる世界が理想である、飛行機や空飛ぶ車で市内だけでなく全国どこでも送迎に行けるようになるといい、といった自由な発想での意見も多く挙げられた。

ワークショップ後の振り返り

■ワークショップ実施後のアンケート結果

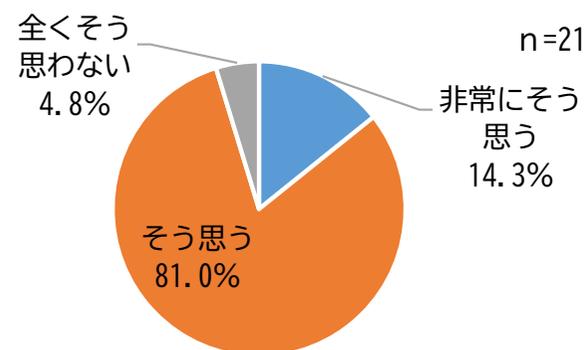
1 ワークショップのテーマ設定はいかがでしたか。

	回答数	割合
① 非常に満足した	7	33.3%
② 満足した	14	66.7%
③ 少し不満足	0	0.0%
④ 不満足	0	0.0%
合計	21	100.0%



2 今回のように単発ではなく、複数回（全2～3回など）行いたいと思いますか。

	回答数	割合
① 非常にそう思う	3	14.3%
② そう思う	17	81.0%
③ 全くそう思わない	1	4.8%
合計	21	100.0%



ワークショップ後の振り返り

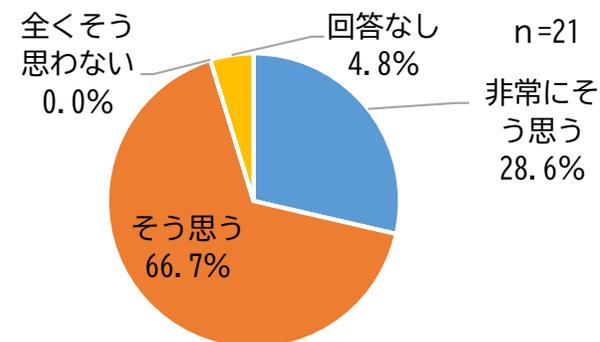
3 本ワークショップに参加して、御自身の興味・関心を持った分野や課題、キーワードがあれば教えてください。

- 未来の介護について考えるのが楽しかった。そのために今できることを考えるきっかけになった。
- 財政面（給料）、休日、待遇面、自分と違うタイプの施設
- 障害福祉の仕事をしており、高齢福祉職の方と関わり新鮮だった。とても良い機会になった。
- 知識より思いやりが大切
- 同年代の方、同じく未経験の方が意外といるのだと思った。同業者との意見交換をしたり聞いたりして、とても良い刺激になった。このような場にまた参加したいと思った。
- 好きな季節を一年中楽しむ。介護職のスキルを日常生活でもいかせる。愛情があふれている職場
- 知識より思いやりが大事というのは、本当にそのとおりだと思いました。
- 介護の方がほとんどなので、就労支援の方の意見等を聞きたいと思いました。
- カードゲームは慣れてくると面白かった。
- 物事を考えるときは、時間がかかってしまうことが多いので、プレストを用いてワークショップをしてみて楽しかったです。
- みんな同じようなことを考えて感じていた。

- 改めて介護福祉の魅力を考えさせられました。
- 未来の介護福祉の世界。みんな給料の話が出たこと。
- カードを使用して想像するのは難しく感じたので、これを機に職員に伝えていきたいと思った。
- こういった場で積極的に発言をするのは苦手ですが、楽しく参加できました。未来の福祉の世界について、考えたことがなかったので、これから考えていきたいと思います。
- 「思いやり」、「愛情」、「アイデアのハードルを下げる。」
- 各職場の参加された方たちからの、その方から見ていること、仕事上での考え方などワークショップの中で知ることができ良かったです。
- プレストを初めて行いましたが、アイデアがたくさん思いつきました。この方法だと気兼ねなく話し合うことができるのと、自分の意見は間違いではなかったかなと思わなくて良いので、経験できて良かったです。
- 未来の福祉の世界として、どのグループの発表でも賃金アップについて触れられていて、どこの職場でも介護業界は少なからず賃金に不満を持っておられる方が多いのだなと改めて実感しました。

4 このような交流機会は、若手職員の職場定着に有効だと思いますか。

	回答数	割合
① 非常にそう思う	6	28.6%
② そう思う	14	66.7%
③ 全くそう思わない	0	0.0%
回答なし	1	4.8%
合計	21	100.0%



ワークショップ後の振り返り

5 その他、ワークショップ全体への感想。フィードバックなど御自由に記入ください。

- 全体的に楽しくて、もっと時間がたくさん取れたり、話し合う時間がいっぱいあったらいいと思いました。
- 楽しかったです。ブレスト初めてやりましたが、面白いと感じました。自分は頭が固くなっていたと気づき、これからにいかしていこうと思います。ありがとうございました。
- 市内の大学（工科大・産大）に福祉職の魅力を具体的に伝えても良いと思った。自分自身、産業大学出身で、福祉を全く知らないで入社したので、大学に魅力を伝えることが大事だと思った。
- 初対面の人と会話をするのは難しいし、緊張しましたが、優しい人ばかりで楽しかったです。
- 今回初めてワークショップに参加させていただきました。想像していたものよりもフランクで楽しく参加できました。グループの方とも楽しく話せて良かったです。
- 本日はありがとうございました。介護・福祉の未来について考える良い機会になりました。
- 他の施設の人と会って話をする機会は今までなかったので、新鮮で良かったと思いました。
- とても有意義な時間になりました。
- 同じ職種の方と意見交換ができて良かったです。ありがとうございました。
- 他の施設のスタッフさんと交流できて楽しかった。
- 瞬発力を問われるというか、自分だけでは思いつかない意見などを聞いて良かった。
- いろいろな意見を聞くことができ、とても勉強になりました。
- コロナ中でなかなか研修を行えず、このようなワークショップを開いていただいて良かったと思いました。ありがとうございました。
- 他の事業所の方と関わることができるのは良いことだと思いました。
- 介護福祉職の魅力について、考える良い機会になりました。
- 社会人になってから初めての経験だったが、似たような職種の同世代の人々と交流ができ、安心感があった。
- 今回の研修を受ける前までは、この例題に沿って意見交換で話をまとめ、発表なのかと思っていましたが、最初、頭の体操をしますと聞いてびっくりしたのと同時に、こんなブレストカードを使用し、いろんな考えを出することができるのかと思い、瞬発的に意見を出せるのだと自分自身驚きました。今後の仕事でもいかしていきたいと思います。
- 入職して初めてワークショップに参加したため、普段の業務とは違う刺激をもらいました。

■ワークショップの成果

若手職員の離職防止や職場定着を促進するため、ワークショップの枠組みを活用して、まず同年代のコミュニケーションを図った結果、成功を収めたと考えています。参加者からは「定期的な開催」を求める声もあり、情報共有を通じて仕事に誇りを持ち、業務改善への意欲と安心感が向上していることがわかります。このワークショップスタイルは、業務の課題や改善などの日常業務の延長ではなく、「カード」を使用したゲーム感覚のアプローチであり、参加者にとって新たな発想のきっかけとなったと考えています。